様式４　　〈推進校 → 一宮市社協〉

2024年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立朝日西小学校	学校Ｎｏ.	37

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

・目　　標：実践活動を通して、社会福祉への理解と関心を高め、進んで地域社会に奉仕しようとする心を育てる。

・計　　画：学校内の環境整備、美化活動、園芸栽培活動

・推進体制：社会福祉部を組織し、計画的に実践する。

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

＜学校内の環境の整備＞

・学校には様々な方が自家用車で来校されるが、本校駐車場の白線は薄くなり、駐車が難しい。また、玄関に近い場所を「おもいやり駐車場」としていたが、看板が老朽化していて、気がつかない方が多いので、白線を引き直し、優先区画を設けた。

・福祉実践教室の車いす体験や地域の方も参加した避難所開設訓練・防災訓練において使用した車いすの修理・整備を行った。本校が避難所となった場合や、児童にけが人がでたときにいつでも使用できる体制が整った。

３．福祉教育の成果と今後の課題

・福祉実践教室に対し、事前に調べ学習を行ってから体験し、事後に学んだことをまとめたことで、児童はより福祉というものに関心をもった。けがをした児童や落ち込んでいる児童、地域の高齢者や障害のある方への声かけや配慮もできる児童が増えてきたように感じる。

・昨年度の反省で、職員の異動等で行事の引継ぎの大切さを挙げたが、福祉関係の行事や学習が高学年に偏っていることや職員の人数が少ないことで、本年度も難しかった。写真や書類をデータで確実に保存し、担当教員が替わっても継続して行えるよう職員会等を通して、情報共有を図っていくことがこれからも大切である。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

様式４　　＜推進校→一宮市社協＞

令和６年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立開明小学校	学校No.	３８

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（１）目標

高齢者や障害のある方との交流を通して社会福祉への関心を高め、児童が自分でできることを実践することで、福祉に対する意識を高める。

（２）計画

○５年生児童を対象に、福祉実践教室に取り組む。さらに、総合的な学習の時間において、福祉についての学習に取り組む。

○５・６年生児童を対象に、「開明地区ねたきり老人・ひとりぐらし老人あて愛の年賀状送付事業」に取り組む。

○全校で、６年生に感謝の気持ちを伝えるための「感謝の気持ちを伝えよう　一人一鉢運動」に取り組む。

○全校で、赤い羽根募金・緑の募金活動に取り組む。

（３）推進体制

該当学年・児童会を中心にして、また、取り組みによっては、ＰＴＡ・地域の方々とも連携して推進する。

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

今年度、福祉実践教室では、５年生児童が、手話・点字の講習、車いす、視覚障害者ガイドヘルプ、高齢者疑似体験の活動を６月に行った。その後、これらの経験を基に、総合的な学習の時間において、自分の設定した学習課題を調査・追究する学習を進め、社会福祉への関心を高めることができた。また、１１月の学校公開日の学習発表会において、保護者・地域の方々の前で、学習したことを発表した。

さらに、１１月に校内において、児童会が中心となって、赤い羽根共同募金に募金活動に取り組んだ。また、５・６年生児童が分担して、開明地区の高齢者に向けて相手が喜ぶようにと心をこめて年賀状を作成した。この取り組みで、地域の高齢者の数がとても多いことを知り、改めて福祉の必要性とその大切さを感じていた。新年に返事が届いた児童は大いに感激していた。

他にも、１１月末から卒業する６年生に感謝の思いを日々の手入れに込めて、「感謝の気持ちを伝えよう　一人一鉢運動」に取り組み、卒業式場を色とりどりの花でいっぱいにした。

３．福祉教育の成果と今後の課題

それぞれの取り組みの意義をおさえての指導することにより、児童の福祉への意識は高まるとともに、理解も深まっている。今後も、上記の取り組みの内容を工夫し、児童の福祉の心をさらに高めることはもちろんのこと、日常の生活の中でも相手を思いやる心をもとにしたよりよい人間関係づくりを進めていきたい。

様式４　　＜推進校 → 一宮市社協＞

2024年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立大徳小学校	学校Ｎｏ.	３９

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（１）目標

高齢者や障害のある方との交流活動やふれあいの機会を通して社会福祉への関心を高め、児童が自分でできることを調査・追究することで、福祉実践力を養う。

（２）計画

○全校で、緑の募金活動に取り組む。

○４年生児童を対象に、「福祉実践教室」に取り組む。あわせて、１学期の総合的な学習の時間において、福祉についての学習を進める。

○２～６年生の児童を対象に、大徳・朝日支会のそれぞれの「愛の年賀状送付事業」に取り組む。

○３・４年生児童を主体として、「一人一鉢運動」に取り組む。

○登下校でお世話になっている見守り隊の方々などに感謝の気持ちを伝える。

（３）推進体制

該当学年・運営委員会・福祉環境委員会を中心にして、また、取り組みによっては、ＰＴＡ・地域の方々とも連携して推進する。

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

６月１４日（水）に、４年生の児童が「福祉実践教室」を受講することができた。貴重な体験により、大切なことを学ぶ機会となった。

１１月中に、２～６年生の児童が学級ごとに分担して、相手が喜ぶようにと心をこめて、大徳・朝日地区の高齢者にあてた年賀状を約２００枚作成した。取り組みを通して、地域の高齢者の数の多さを知り、改めて福祉への関心を高めていた。新年に返事が届いた児童は、とても喜んでいた。

１１月から３月にわたり、３・４年生の児童を主体として「一人一鉢運動」に取り組んだ。成長したパンジーの鉢植えは、卒業式の会場を彩った。卒業式には在校生は参加しなかったので、在校生の思いが厚く込められたものとなった。今後、４月の入学式の会場を彩る。

２月には、日頃より登下校の安全を見守っていただける「見守り隊」の皆様、読み聞かせボランティアの皆様、そして米づくりでたいへんお世話になっているボランティアの皆様を学校にお招きし、「感謝の会」を催した。児童は日ごろの感謝の気持ちを表したメッセージカードを作成し、お渡しするとともに、全校で合唱し、感謝の気持ちを伝えた。

３．福祉教育の成果と今後の課題

それぞれの取り組みの意義をおさえての指導により、児童の福祉への意識は高まり、理解が深まった。次年度でも、取り組みの一層の充実を図っていく。さらに、日常の生活の中でも、相手を思いやる心をもとにした、よりよい人間関係づくりを進めさせていきたい。

様式４　　〈推進校　→　一宮市社協〉

令和６年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立黒田小学校	学校Ｎｏ.	４０

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（１）目標「人の気持ちを理解し、思いやりを大切にする子の育成」

・教　　科…自分の考えをもち、相手の気持ちや立場を理解する力を育てる指導法の研究

・道　　徳…人との関わりに関することに重点を置いた道徳や命の教育の工夫

・特別活動…心のふれあいを大切にした福祉体験活動

（２）計画

・福祉実践教室の実施　　（１２月…５年生）

・黒田小サロンでのふれあい活動（通年…１・２年生）

・人権教室の実施　　（１２月…全学年）

（３）推進体制

人権・福祉係を中心に企画し、運営は全職員で実施する。

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（１）福祉実践教室

・実施日　１２月１９日（木）

・実施内容　車いす・ガイドヘルプ・点字の体験

（２）黒田小サロンでの活動

・実施期間　毎月第３火曜日の午前中

・実施内容　いきいき体操・ミニコンサート・講演会

（３）人権教室

・実施日　１２月９日（月）

・実施内容

人権擁護委員の方による講話、いじめ防止に関するDVD視聴

（４）担任による道徳/各教科での授業/生活指導

【黒田小サロンでの様子】

３．福祉教育の成果と今後の課題

福祉実践教室では、車いす・ガイドヘルプ・点字を体験し、障害のある方が生活する上での苦労や工夫や、どのような気持ちで生活されているかを知ることができた。本校には、車いすで生活している児童も在籍しており、８月に校舎一階渡り廊下がバリアフリー化されたこともあり、福祉実践教室での体験から、福祉についてさらに調べたり、自分の住む町や施設の不便さに気づいたりするなど興味・関心を深めた児童もいた。

本校は校内でサロンが実施されている特色を生かし、児童と地域の高齢者の方々とふれあう活動を行った。高齢者の方々からは本当に楽しみにしているという声が聞かれ、子どもたちにとって自分たちがとても大切にされている存在であるという思いをもつことができる時間になっているのではないかと思う。

今後も、自分も他者も大切にし、優しく思いやりのある児童の育成に努めていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

様式４　　〈推進校 → 一宮市社協〉

2024年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立木曽川西小学校	学校Ｎｏ.	41

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（１）目標　・高齢者や障害のある人との交流を通して、相手を尊重し思いやる心を育てる。
・社会福祉に対する理解と関心を高めることにより、高齢の方や障害のある方等と共生できる、思いやりのある行動が取れるようにする。

（２）計画　・福祉実践教室（５年）
・募金活動（児童会）
・人権週間（児童会）

（３）推進体制　・総合的な学習の時間、道徳、学級活動において全職員で実施する。
・児童会活動を通し、全校体制で取り組む。

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

○福祉実践教室（５月）
５年生が、点字、手話、車いすの体験活動を行った。
また、道徳の授業で社会福祉についての考えを深めた。

○赤い羽根の募金活動（１１月）
児童会役員が募金への協力を呼び掛け、全校児童で募金活動に取り組んだ。

○人権週間での取り組み（６、１１月）
人権週間に全校児童が校長講話を聞いた。また児童会が呼び掛けを行った。
学級でも、ビデオを視聴したり、道徳の授業を通して人権を守る取り組みを行ったりした。

３．福祉教育の成果と今後の課題

それぞれの発達段階に応じた活動を取り入れることで、児童の福祉に対する意識が高まった。総合的な学習の時間を利用して、福祉に関する事前の調べ学習を行ったため、児童の理解が深まったのではないかと考える。また、福祉実践教室で実際に体験したことで、障害のある方に対する理解と接し方を学習することができた。すべての人に対して「思いやりの心」をもって接していこうという気持ちを育てることができたと感じている。

今後、これらの活動で学んだことを、家庭や地域で実践できるように、児童の意識を高めていけたらと考える。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

様式４　　〈推進校 → 一宮市社協〉

2024年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立木曽川東小学校	学校Ｎｏ.	42

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（１）本校の福祉教育の目標

①福祉に対する理解と関心を高め、進んで人や社会に関わろうとする意識を高める。

②だれに対しても優しく、思いやりのある態度で接し、自他ともに生命を尊重しようとする意識を高める。

（２）実践方法

①総合的な学習の時間や、道徳、学級活動、各教科との結びつきを考慮する。

②体験的な学習を取り入れる。

（３）計画

・福祉実践教室　・福祉についての調べ学習　・募金活動　・使用済み切手の回収運動

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

【手話】５年生

簡単な手話を学び、理解を深めた。

【視覚障害者ガイドヘルプ体験】５年生

お年寄りや目の見えない人の気持ちを知るために、器具をつけて校内を歩く体験をした。

【点字】５年生

点字を打てる道具を使って、点字を打って、てんじの仕組みや必要性を学んだ。

【福祉についての調べ学習】５年生

福祉自洗教室での体験や福祉に関する冊子やインターネットなどを使って調べたことをもとにまとめた。

【募金活動・使用済み切手回収運動】

募金は児童会が呼びかけ、使用済み切手回収はPTAと協力して、全校で取り組んだ。

３．福祉教育の成果と今後の課題

５年生の福祉実践教室では、実際に体験することにより、障がいのある人の願いや大変さが分かり理解を深めることができた。また、事前学習を行うことにより、あらかじめどんなことが知りたいかということをピックアップすることができた。事後学習においては学んだことを生かしてどのように行動していきたいか、ということを考えられた。

今後も、福祉に対する理解を深め、日々の生活の中で誰に対しても優しく、思いやりをもって接する態度が育まれるよう支援していきたい。さらには道徳、学級活動、各教科にも積極的に福祉に関わる学習を取り入れていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。